

新年のごあいさつ

めむろちょうみん みなさま しんねん
芽室町民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族ともども穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃から町政に対しまして深いご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年も「新型コロナウイルス感染症」が継続的にまん延し、感染に不安を抱きながらの1年となりました。ただ、当時の感染拡大時と比較しますと町民の皆様の「新型コロナ」に対する危機感、不安感は少し変化してきたようを感じます。また、行動制限等もない中で「3年ぶりの○開催」などのマスコミ報道がなされ、社会・経済活動を「ウイズコロナ（新型コロナとともに）」の意識の中で復活させていく状況になつてきました。

町といたしましては、新型コロナ対策としてはワクチン接種や予防活動の啓発・推進などを継続し、物価高騰対策としては長期的な影響も予想されることから、国・北海道とも連携しながら、生活支援や経済対策など、町としてできる支援策について継続的に検討、実施していかなければならぬと考えております。

さて、基幹産業である農業の昨年の生産額は、約333億円となり、過去最高だった一昨年に次いで2番目の生産額となりました。しかし、生産に要する費用の高騰や生産抑制を余儀なくされる品目もあるなど、持続的、発展的な農業振興に向けて懸念される課題に対し、しっかりと対応しなければならないと考えております。

一方、新たに課題として国際紛争の影響などによる「物価高騰」が我が国を直撃し、国民生活や産業・経済活動に大きな負担・圧力となつてきました。一方で、新たな課題として国際紛争の影響などによる「物価高騰」が我が国を直撃し、国民生活や産業・経済活動に大きな負担・圧力となつてきました。一方で、新たな課題に加え、新たに産業、教育、保健・医療・福祉といつた幅広い分野と行政手続きなどにおける「デジタル化の推進」、ゼロカーボンへの取り組みなども重要課題と捉えており、早期実現に向けて取り組みを進めたいと思ひます。さらに「住んでいる方が活き活きするまちづくり」が当然ベースにならなければなりません。次代に向けての人財育成、郷土愛や地域コミュニティの醸成、町民生活環境の充実、世代ニーズに

あわせた行政サービスの提供など、幅広い政策を実行してまいります。

これらの町政課題に向けての想いとして、毎年お伝えしている今年の一文字は「再」といたしました。昨年7月には多くの町民の皆様にご支援いただき「再」び町政を担わせていただくこととなりました。新型コロナや物価高騰からは復興にチャレンジしなければならない課題があります。また、まちづくりの基本となる「第5期芽室町総合計画」も前期4年が終了し後期計画として「再」スタートします。

これまで先人が築いてきた町の歴史や経過、功績も重んじながら、私自身初心に帰り、新たな時代、新たなまちづくりに向けて力強く「再」スタートしたいと思ひます。

芽室町長

手島 しま

旭



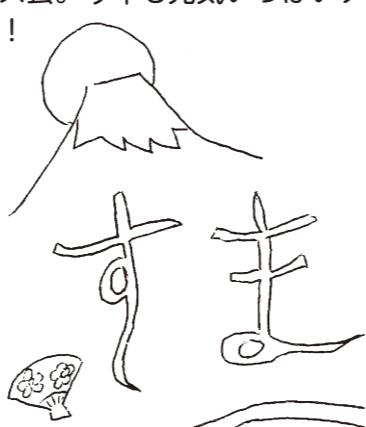


▲ Memuro Unite Project、芽室ジモト大学メンバーなどが集まり、イベントも大成功！今年の活躍も期待大です！



新春 特集

今月の特集は「新年の抱負」です。
今年が明るく楽しい1年になる



▲田舎のマジシャン加藤さんにマジックを披露してもらったクリスマス会。今年も元気いっぱいイスな一年にするぞ！



▲毎週火曜日、みんな笑顔で、まるごと元気に！どんどん若返っちゃって困っちゃう！



題字
川角
芽生さん(9歳)
町の皆さんとの笑顔の写真とともに、
ことを願っています。

清水御影アイスホッケー少年団 所属の芽室っ子のみなさん



▲芽室町をスポーツの力で元気に！



▲ピンピン体操で今年も笑顔で健康な一年に！



▲新しい家族が増えました☆ミ
たよりになるにいに！今年も沢山抱っこしてね♡仲良し兄弟になれ♪



▲**当**日は実行委員の高校生や町民有志らが会場を設営。屋台も出店するなど、駅前が大いに賑わいました



▲ Memuro Unite Base(本通2丁目13-1)で
おこなわれた高校生 CLUB Party Night は、現役
DJ がプレーするなど本格志向。こちらも
ユナイトプロジェクト
Unite Project ほか芽室ジモト大学の学生が運
営に携わり、大盛況となりました



10月ごろからたった2ヶ月間で素敵なもの
リスマスを創り上げてくれた実行委員の皆さん。
当時は、白樺学園高校サッカー部の皆さんもボラ
ンティアでお手伝いをしてくれました！
興奮冷めやらぬ週明けに実行委員長の大能さんに
お話を伺いました。



まへくわんじゆうのうのひめひめさん

学校も学年もバラバラ。でも、想いはひとつ。
12月17日(土)16時、カウントダウンとともに芽室駅前ロータリーに無数の優しいかかりが灯つた。町内の幼稚園、保育所、小学校の子どもたちが一生懸命作つた「めむクリハウス」にあかりがついた瞬間だ。親子連れを中心で大きな拍手が沸き起つる。学校も学年もバラバラな11人の高校生たちの努力が形になつた瞬間でもあつた。

きつかけは「ジモト大学」と「かちフェス

今度からまったく町の事業「ジモト大学」は中学生が地域に飛び出し、地域の大人たちが講師となるなど、地域そのものを多様な教材として、ともに考働し、ともに芽愛を育み、ともに未来を創る次世代の人財育成プログラム。

ジモト大学の事業でおこなわれたサイクルツーリズムに参加した大能さんは、10月に芽室公園で行われた「かちフェス」のボランティアなどを通じて「小さなことでもいいから、自分たちでなにかイベントを創り上げたい」という思いを抱いた。

「芽室町にはクリスマスのイベントがない」と聞き、「ならば高校生の私たちが作ろう!」と一念発起したのが今回の「めむクリ」を作りとしたきつかけだそつ。たくさんの人々に町の中心を見てももらいたい

ントと思つていたが、歩いてみると寂しい感じがした。ならば、この現状を高校生だけでなく、芽室町の皆さんにも知つてもらいたいと思つた」とおもひながら、そこで、町内の保育所や幼稚園、小学校等に掛け合い、子どもたちに作つてもらつた作品を飾ろうと思つたそう。子どもが来るには、まだまだつたそつだが、その狙いは大成功！今日は多くの親子連れの姿が目立つた。

対等に接してくれる大人

励ましててくれる大人

手を差し伸べてくれる大人

準備の苦労やイベントを終えた感想をうつされ、「放課後から活動開始となるため、毎日夜遅くまでミーティングを重ね、企画を練り直し準備を進めました。アドバイスをくださる大人の皆さん、高校生としてではなく対等に接してくださり、真剣に向き合つてくれました。また、めむクリハウスづくりでお邪魔した幼稚園等では、先生たちが励ましてくれ、さんの皆さんのがあつてこそ、このようないべんとができたと実感しています。ぜひ、後輩たちにもめむろのクリスマスといえれば『めむクリ』となるようにチャレンジしてもらいたい」と笑顔いっぱいに話してくれました。

学校も学年もバラバラ。

はじめは高校生の自分たちが樂しまる おもかげ